



横浜市立相武山小学校

学校だより

2月号

令和6年1月26日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「 実 体 験 」

学校長 後藤 直樹

ようやく冬らしい天候となりました。ただ、それでも霜は目にしますが池やバケツに張った氷には今だ出会っていません。平均気温が上昇するという事は、サケの漁場であった場所でブリが獲れたり、この横浜でも甘いミカンが実るようになったりと、人にとってはトピック程度の話でも動植物にとっては、すでに死活問題となっているのかもしれない。

さて、年末から年明けにかけて、体験的な行事の引率が重なったこともあり、私は結構忙しい日々を過ごしています。12月18日には6年生と一緒に国会議事堂(参議院)を見学しました。私は仕事から幾度も行っていますが、多く子どもたちにとっては、最初で、もしかすると最後の経験となるかと思えます。国会の会期中ともなれば連日テレビ放送されているので、目にしている景色ですが、実際に足を踏み入れた子どもたちは、高い天井と石造りの重厚な空気を全身で感じ取っていました。赤い絨毯を踏んだ経験は一生、記憶に残ることでしょう。実際の体験を通して、五感の全てから感じとった記憶は、頭の中に一つのまとまりとして、書物や画像からの知識とは違う形で保存されていくような気がします。よく、昔に流行していた曲を聴いたときに、その時の出来事や情景をやけに鮮明に思い出したりすることがあります。この場合は音楽ですが、香りや触覚、その全てが普段は意識していない深い部分の記憶の扉の鍵になっているのだと思います。ですから小学校の6年間という貴重な時間の中で、体験として感覚的な記憶を増やしていくことも大切にしていきたいと考えています。日々の学習にもできるだけ多くの体験的な活動を取り入れたり、年間行事として計画されている体験的な活動の中身を充実させたりしていきたい。これまで学校の経営方針にも掲げてきましたが、改めてその思いを強くしました。

さて、今年度も残すところ2か月あまりとなりました。年頭の朝会で私は今年の漢字として、「備」という字を示しました。低学年はまだ習っていませんが、元日の地震の話から、準備をしっかりしておくことの大切さに触れました。

2・3月という時期は1年間のまとめの期間ですが、次のステップに向けた大切な準備の時間でもあります。十分な準備こそが充実した活動・学習、そして余裕をもった判断にもつながることを子どもたちに伝えました。温暖化や社会の情勢で少しずつ、しかし確実に変わっていく環境にも万全の準備でしっかりと順応できる、そんな子どもたちに育てていければと思います。



参議院本会議場